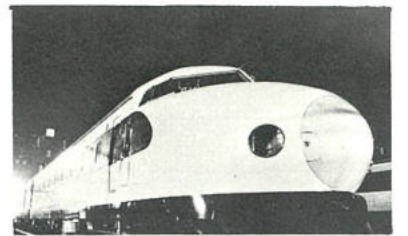


県勢この一年

躍進へ着実な胎動



待望の東北新幹線は、51年完成をめざして着工。完成すると東京・盛岡間が2時間半で結ばれることになる。



全日空機事故は死者162名と世界最大のいたましい惨事となった。(事故調査団に事故のようを説明する県対策本部)



老人医療費の無料化が行なわれ、老人にとってこのうえない朗報となった。(75才以上10割。74才～70才9割)



県知事・県議・市町村長・市町村議と地方選挙があいつぎ、第三期千田県政がスタートした。



高速時代を先取りするためなどで株式会社「岩手開発」が発足。土地の先行取得などを行なうこととなった。

一九七一年もあとわずか、この年は、昨年の岩手国体の成果をいかし、大県構想の実現に力強い一歩をふみだした年といえよう。東北新幹線の決定やその他鉄道路線の整備拡充など交通網の大幅な進展はそれを意味するものであり、また、老人医療の無料化など社会

福祉面の大きな進展もそのあらわれといえよう。しかし、反面では、全日空機事故のように悲しいできごともあり、また、経済面では予想される中央大資本の圧迫や農作物の被害などもあったが、県勢は総じて躍進への大きな胎動を着実ににつづけた年といえる。

新日鉄釜石・盛岡工高

ラグビーで全国優勝

一月 新年早々とびこんできたのは明るい話題、新日鉄釜石と県立盛岡工高がラグビーでそろって全国優勝をした。ラグビー岩手の快挙に県内はおおいにわいた。

東北新幹線の建設が、鉄道審議会の答申をえて本格化し、工事計画の発表がまたれることとなった。三陸沿岸水産資源開発原案、

北上平野高生産性農業基本計画案、総合福祉五カ年計画案が相次いでまとめられ、実行が期待されることとなった。

四月 県経済部・農務部などが時流にあわせて大幅に機構を改革、また、公害課の新設、専任職員の設置など公害行政の充実がはかられた。

四月からオーブンすることとなった。新主要地方道に盛岡・遠野など十路線が指定され、道路整備はさらに明るい見通しとなった。地方生活圏構想で、盛岡・北上中部・宮古・釜石・大船渡を地方生活圏に指定。道路、住宅、下水道などが一体的に整備拡充される見通しとなった。

第二期千田県政スタート

公害行政が充実

四月 県経済部・農務部などが時流にあわせて大幅に機構を改革、また、公害課の新設、専任職員の設置など公害行政の充実がはかられた。

四月からオーブンすることとなった。新主要地方道に盛岡・遠野など十路線が指定され、道路整備はさらに明るい見通しとなった。地方生活圏構想で、盛岡・北上中部・宮古・釜石・大船渡を地方生活圏に指定。道路、住宅、下水道などが一体的に整備拡充される見通しとなった。

良舗装や石鳥谷・一戸バイパスの着工、北上バイパスの全線開通にメドがついたこと、また、三陸縦貫鉄道では、久慈線宮古―田老間、小本線浅内―岩泉間が年度内開業の見通しなど、交通網の整備の大幅な進展が約束された。

今年には地方選挙の年、県知事選をはじめ、県議、市町村長、市町村議の選挙があいついで行なわれ、県知事選では、千田正

氏が三選、ひきつづき県政を担当することとなった。山形村について本県二番目の山村開発センターが大東町設置に内定した。

五月 全国野鳥保護のつどいが常陸宮ご夫妻をお迎えし盛大に開催、ひきつづき両殿下ご出席のもとに、県鳥獣保護センターが滝沢村にオープンした。

七月 誘致が期待されていた国立総合高等職業訓練校が釜石市に設置が決り、技術者の養成に大きな期待がかけられることとなった。

全日空機事故世界最大の惨事

「岩手開発」発足

一 東北新幹線工事計画決まり、五十一年完成めざして着工。
二 全日空機と自衛隊機が衝突。活発な救援活動を展開。
三 老人医療費の無料化、国に先がけてスタート。
四 地方選挙あいつぎ、第三期千田県政スタート。
五 岩手開発と岩手畜産流通センターが発足し、開発と流通の近代化に期待。

七月 誘致が期待されていた国立総合高等職業訓練校が釜石市に設置が決り、技術者の養成に大きな期待がかけられることとなった。

八月 北上川汚濁対策協議会が岩手・宮城両県の構成で発足。年六回の情報交換のうえ、監視体制に万全を期することとなった。

六 主要地方道に盛岡・遠野線など十路線が指定。
七 県機構各部にわたって整備され、公害課・国民健康保険課など新設課も登場。

七月三十日、雫石町上空で全日空機と自衛隊機が衝突。全日空機の乗客ら百六十二人が全員死亡。世界航空史上最大の惨事となった。文字どおり、突然にふってわいた不幸なできごとであったが、雫石町をはじめ、関係団体等の懸命な救援活動に各

大船渡市と加工業者間で県内第一号の「漁業公害協定」を締結。公害撲滅にあらたな一ページを加えることとなった。

八 岩手国体の成果実り、各種競技で全国制はあいつぐ。第二十六回国民体育大会で総合七位。

七月三十日、雫石町上空で全日空機と自衛隊機が衝突。全日空機の乗客ら百六十二人が全員死亡。世界航空史上最大の惨事となった。文字どおり、突然にふってわいた不幸なできごとであったが、雫石町をはじめ、関係団体等の懸命な救援活動に各

高速交通網の整備などで押しよせる県外資本の圧迫などに対処するため、株式会社岩手開発(社長小口芳彦氏)が資本金四億円で発足。岩手の健全な開発のため、官公民出資の第三セクターの新会社として、大きな期待がかけられることとなった。

十 県商工業振興対策会議が設置され、ジェットロ盛岡貿易相談所もオープン。

七月三十日、雫石町上空で全日空機と自衛隊機が衝突。全日空機の乗客ら百六十二人が全員死亡。世界航空史上最大の惨事となった。文字どおり、突然にふってわいた不幸なできごとであったが、雫石町をはじめ、関係団体等の懸命な救援活動に各

高速交通網の整備などで押しよせる県外資本の圧迫などに対処するため、株式会社岩手開発(社長小口芳彦氏)が資本金四億円で発足。岩手の健全な開発のため、官公民出資の第三セクターの新会社として、大きな期待がかけられることとなった。

1971年県勢ビッグテン



時流にあわせ経済部、農務部など県機構大幅に改革。また、公害課の新設・専任職員の設置などで公害行政も充実した。



ラグビーで新日鉄釜石と盛岡工高、バレーで高田高校がいずれも全国優勝、また国体は総合7位となった。(高田高校)



常陸宮ご夫妻をお迎えして全国野鳥保護のつどいが開かれ、また、県鳥獣保護センターもオープンした。



JETRO盛岡貿易相談所が5月1日オープンし、県産品の輸出などに期待がかけられることになった。



全国農村青少年技術交換大会が岩手山麓で開催され、全国から約1,500人が参加し熱心に明日の農業を語りあった。

県広域商工業推進協議会が発足。県内商工業の大手資本による圧迫に備えるため、官民一体の推進体制が実現することとなった。

県内の求人取り消しが、日立製作所などを中心に相次いでおこり、ドルショックの影響かと不安がつのった。

九月 県の第二次農業構造改善事業で、金ケ崎町など八地区を認定、事業費総額二十二億円で答申。農業基盤の整備が大幅に進展することとなった。

和歌山県で開催された夏の国体で岩手のボートが総合二連勝をかさり、秋の国体に大きな期待がかけられることとなった。

水産、冷凍加工業界が海水汚染などの公害防止をねらいとして、水産関係公害対策委員会を

十月 老人医療費の無料化が全国に先がけてスタート。七十五歳以上は完全無料、七十歳から七十四歳までは九割給付と老人にとってはこのうえない朗報となった。

県出稼ぎ互助会が秋田県について全国二番目にスタート。事故見舞金の給付や賃金不払いの立て替え、それに郷土通信などもあって、出稼ぎ者やその家族

秋工業の経営強化をめざして盛岡鉄工団地協同組合が発足。三十一企業が参加し、年商八十億円をめざして、四十九年度に移転完了することとなった。

老人医療費無料化 国体好成績をおさめる

にとって大きなよりどころとなった。

福岡町と金田一村の合併が本格的になり、新市名は「二戸」となった。県北の拠点都市として発展が期待される。

国体一年後大会として県民総参加スポーツ大会が全県下で開催された。中央会場の盛岡市県営運動公園陸上競技場では、国体旗の出発式もかねて開催され、

約三万人が参加、大成功をおさめた。

注目されていた東北新幹線の工事計画が発表され、運輸大臣の認可もえて、月末には起工されることとなった。関心をあつめた駅の設置は、盛岡、一関、北上それに水沢は将来整理駅として設置されることとなり、また、ルートでは一関市に日本最長の鉄橋が建設されることなどが注目された。

成績が期待されていた秋の国体は、ラグビー、ボクシングが総合二連勝をしたほか、他種目の健斗もめざましく、総合成績七位と予想を上まわる好成績をおさめた。昨年の岩手国体の成果がひきつづき発揮されたもので、本県スポーツの定着に大きな自信となった。

今年の異常気象は農作物に大きな被害をもたらし、稲作は戦後三番目の不作となった。

十一月 県民総参加により、県内産業の振興をはかろうと「躍進いわての産業まつり」が盛岡市内四会場で五日間開催され連日のにぎわいで大きな成果をおさめた。

県自然保護条例案の大綱がまとまり、恵まれた自然の保護にいつそうの期待がよせられることとなった。

畜殺場や食肉処理施設、素牛取り引き市場などを備え、広域的な畜産物流通施設として期待される「岩手畜産流通センター」が紫波町大淵に設置が決定。岩手の畜産はさらに一歩前進することとなった。

老人医療費無料化

国体好成績をおさめる